

☆マザー・テレサの列聖：マザーが自分の故郷以外の世界中で知られていた☆  
(マザー・テレサの列聖を前にした、マザーの故国であるアルバニアの外交官の話)

マザー・テレサが1979年にノーベル賞を受賞したとき、彼女の偉大な仕事は全世界に知れ渡っていた。ただ一つの例外を除いて。それは彼女の生まれ故郷のアルバニアである。アルバニアでは共産主義政権が宗教だけでなく、神も、そしてその結果、アグネス・ゴンジャ・ボヤジウという同朋も記憶から消すべきものとして禁じていた。

このように語るのは、パチカン在駐のアルバニアの外交代表ヴィサール・ゼヒティ Visar Zhiti である。「当時、アルバニアは外からのあらゆる情報を遮断していました。マザーも含めて。彼女は世界的な著名人でしたが、国に帰ることは許されていませんでした」。彼が初めてその名を聞いたのは牢獄の中でであった。彼は1979年から「反政府的」な詩歌を書いたかどで投獄されていた。牢屋の中では、新しく入ってくる囚人に、古参の囚人が「外の世界では今何が起きているのか」と尋ねるのが常であった。ある若い新参者が「僕はRAI（イタリア国営放送）でアルバニア人の修道女シスター・テレサがノーベル平和賞を受賞したというニュースを見た」と言った。このときから「マザー・テレサの名前は私の頭と心から離れませんでした」

アルバニアでは、宗教が完全に禁じられていた。宗教的建物はすべて破壊され、司祭は銃殺されるか投獄されていた。「アルバニア人の修道女が全世界で知られている、ノーベル賞を受賞したというニュースは喜ばしいものでした。神様はこうして、この国で苦しんでいるわたしたちを慰め、「賞」をくださったのです」とヴィサールは解釈する。

釈放されたときはまだ国は共産主義の体制下にあったが、多くの国民はRAIを隠れて見ていた。彼はRAIが放送したマザー・テレサについてのドキュメントを見て、その使命とインドでの仕事に感嘆した。後に仕事のためにイタリアに移り、そこでマザーについて情報をさらに集めた。イタリア語に訳された彼女の祈りの本を見つけ、アルバニア語に訳さねばならないと感じた。「私はその本を訳しながら、何度も泣いたと告白しても恥ずかしくありません」。こうしてマザーの祈りが初めて母国語で出版され、それは大きな成功を収めた。

ヴィサールはまた初めてマザー・テレサと会ったときのことを思い出す。それはアルバニアの国際文化研究所で開かれた会談の中であった。会談が終わって、彼がマザーに近づき「マザー・テレサ、私はあなたの祈りを翻訳しました」と言うと、彼女は素っ気なく早口で「よくやりました」と言うだけであった。この答えを聞いて彼は自問した「なぜ喜ばれないのか」と。そして、何か悪いことを言ったのではと心配した。しかし、彼女の近くにいることができたことで幸せであった。のちに、マザー・テレサが自分についての本を決して読まなかったことを知り、あの答えの意味を理解した。「全世界で最も有名なあの女性は、自分の肖像も、称賛も本も望んでいなかった・・・彼女はただ人類のために働いていたのだ」と。

アルバニアにとってマザー・テレサの列聖という「世界的」出来事は特別の喜びである、とヴィサールは言う。「アルバニア民族はこうして一人の娘を世界に与えたのですから」。この出来事は「わたしたちがよりよい人間になるように、よい国を作るように、隣人の中に神を見るようにとの呼びかけです」と説明する。

ヴィサールは、マザー・テレサの本を読み深くその意味を探っていくと、鉱脈の中に金を探す鉱夫の

ようになった気がすると言う。いつも期待していた以上のものを発見する。決して終わらない地平線のようだ、と言う。

マザー・テレサが死去したとき、わたしたちはなんだか孤児になったような気がした。しかし、今彼女が列聖されるなら、この寂寥感は終わる。なぜなら再び天国からわたしたちを見守ってくださると知っているから、と。

最後に、マザー・テレサはキリスト教徒だけでなく、他の宗教の信者たちにも愛されていると述べる。そして、アルバニアでのバクタシ（イスラム教の一派）の本部の落成式に参加したときに、マザー・テレサが言っていた「わたしたちは一緒に祈るとき、一つになる」という言葉の真実を経験したと言う。この言葉はマザーのメッセージで、アルバニアでは簡単に実感されるものです。それは教皇様もこの国に訪問された際に仰っておられました。アルバニアでは「諸宗教の間に兄弟愛」が存在する。(Zenit – Roma, 2016年9月4日)。



#### アルバニア共和国

人口：300万

宗教：イスラム教が多いが、正教とカトリックの信者も少なくない。

\* \* \* \* \*

- 1944年末、アルバニア共産党を中心にした社会主義臨時政府が設立。
- 1946年、王政廃止、ホッジャを首班とする共産主義政権が成立。ユーゴスラビアと断交。
- 1961年頃、ソ連とも対立、中華人民共和国に接近。それ以外との国とは鎖国状態。
- 1967年、文化大革命の影響を受けて、「無神論国家」を宣言。一切の宗教活動を禁止した。
- 1979年、毛沢東の死後、中国が改革開放路線を始めると、中国も批判。
- 1980年代、欧州の最貧国となる。
- 1989年、全国に反政府デモが続発。

1992年、共産党政権が倒れる。